

令和6年1月10日(水)

「夢売り」

今日は、金子みすゞの詩「夢売り」を紹介します。

年のはじめに
夢売りは、
よい初夢を
売りにくる。
たからの船に
山のように、
よい初夢を
積んでくる。

そしてやさしい
夢売りは、
夢の買えない
うら町の、
さびしい子等の
ところへも、
だまって夢を
おいてゆく。

初夢とは、1月1日の夜から2日の朝にかけてみる夢です。初夢として「一富士、二鷹、三茄子」に代表されるような、縁起の良い夢を見れば、夢を見た人の1年間は良い年になると言われています。誰でも「いい夢を見たい!」と思うものですが、実際には、夢とは自由自在に見られるものではありません。しかし、誰もが強く願ったとしても見られるとは限らない良い夢を、優しい夢売りはさびしい子のところへそっと置いていきます。私はこの詩を読む度に、さびしい子どもたちだからこそ、それぞれに夢や目標が見つかることで、豊かな一年になることを願うばかりです。